



# Support

<http://www.city.niigata.lg.jp/kosodate/gakko/index.html>

No. 9

平成28年10月5日

編集・発行

学校支援課 広報担当

## 学校視察研修 (in秋田)



7月6日(水)～7日(木)の2日間の日程で、秋田県内小中学校への視察研修を実施しました。参加者は新潟市内小中学校の20名の先生方です。

秋田県は全国学力学習状況調査で常に全国トップレベルの成果をあげていることで知られています。また、日々の授業づくりを重視した地道な取組が注目を集めており、私たち新潟市も秋田県が目指している方向性に共感し、参考としてきたところです。

秋田県の学校現場では実際にどのような取組が行われているのでしょうか。

### 秋田大学教育文化学部附属小学校

秋田県内の公立学校と連携し、秋田の授業づくりをリードする研究実践を積み重ねてきました。現在は「対話」を重視した研究に取り組んでいます。



附属小学校では、新潟市の問題解決型のフレームワークと同様の授業を参観できました。内容性、情意性、集団性の3つの要素が高まった学習課題の設定とともに、論点を焦点化する工夫により話し合いが活性化され、子どもの考えを深めることのできた授業でした。



### 秋田市立桜小学校

児童数900名を超える大規模校ですが、学校全体が大変静かで落ち着いており、どの学級も学習に集中して取り組んでいました。学習基盤の大切さを感じました。



秋田市では対話を重視した授業づくりを重点としていました。附属小、市教委、桜小と3か所を回る中で、このことが全市で共通理解され一丸となって取り組んでいるという印象をもちました。視察校で目にした「精選してやりきる」姿を参考として、自校の取組を進めていきたいと思えます。



## 由利本荘市立大内中学校

学校全体で「生徒主体の授業づくり」に取り組んでおり、生徒同士が積極的にかかわり合う場面が多く授業で見られました。学校全体に統一感が感じられました。



課題提示が工夫されており、生徒の興味関心をひく授業が当たり前のように行われていました。また、隣の席の生徒同士で、「この問題大丈夫？」とサポートし合うような姿が何度も見られ、まさに協働的な学びが自然と行われており、感心してばかりでした。



## 由利本荘市立鶴舞小学校

自分の考えを書く時間が確保されており、まとめや振り返りまでしっかりと書いていました。また、家庭学習の指導にも学校全体で力を入れて取り組んでいました。



校長先生の明確なビジョンのもと、授業づくりをはじめ学校内の教育活動において一枚岩の取組がなされていました。

当たり前のことを当たり前積み上げていくことが学校文化として根付いており、高い学力を支える基盤となっていることを強く感じました。



## 不登校の減少・改善につながる効果的な支援のポイント！

ご確認ください



不登校対応担当  
坂指導主事

指導主事が学校を訪問し、聞き取った取組の中で、効果の高い取組を紹介します。

「どうして学校に来たくないのか、来られないのか」の理由をきちんと理解して対応していること

欠席管理と休みはじめの対応が全校体制で共通理解できていること

不登校児童生徒へ多くの人に関わっていること(学校内外を問わず)

学校内外におけるケース会議を開催していること(対応連携ができていること)

学校に行けなくなることは、児童生徒、保護者にとって、本当につらく、苦しいことです。その思いに共感し、寄り添いながら、きめ細やかな支援を、これからもお願いします。